



Attracting Tomorrow



2025年3月期 個人投資家説明会

TDK株式会社

証券コード：6762

2024年11月28日

本日のアジェンダ

Agenda

1. TDKについて
2. TDKの強み
3. 長期ビジョン・新中期経営計画
4. 株価情報・株主還元

Appendix

齋藤 昇

代表取締役 社長執行役員CEO

- 1966年 9月10日生
- 1989年 入社 電子材料営業事業部配属（本社）
- 1995年 TDK Electronics Europe 出向（ドイツ）
- 2003年 TDKハンガリー 出向（ハンガリー）
- 2004年 TDK Corporation of America 出向（米国）
- 2006年 TDK Electronics Europe 社長（ドイツ）
- 2011年 執行役員
- 2013年 電子部品営業グループ GM
- 2013年 常務執行役員
- 2015年 戦略本部長
- 2015年 取締役
- 2017年 センサシステムズBC CEO
- 2022年 代表取締役 社長執行役員CEO（現任）



TDKのココが好き！

“機能対等”の企業文化
言葉遣いは気を付けますが、役職に関係なく、言いたいことが言えるオープンなところ。加えて、多種多様な経営資源を全世界に幅広く展開しているところですね。

出身は、三重県鳥羽市です

関西、中部圏の方々はよくご存じと思いますが、水族館と真珠が売りの海沿いの田舎です。



座右の銘「プレッシャーを楽しむ」

言うは易し、行うは難しですが...

休日は落語鑑賞でリラックス

リラックスすると共に勉強にもなります。また、ゴルフも楽しんでいます。

好きな食べもの・飲みもの「何でも」

ですが、玉葱は苦手です。飲み物はコーヒー、ビール、ワイン、日本酒、芋焼酎、と何でもいけます。

子どものころは、お笑い芸人になりたかった！？

電車の運転手や野球選手も考えましたが、人を笑わせることが好きだったのでお笑い芸人まで考えたこともありました。



1. TDKについて

創業の精神

社是

社是
創造に
よつて
文化産業に
貢献する

社訓

夢 勇気 信頼

社名の由来

TDKの創業時の名前は、「東京電気化学工業株式会社」でした。その後、東京 (Tokyo) 電気 (Denki) 化学 (Kagaku) の頭文字をとって、1983年、TDK株式会社となりました。



企業責任と提供する製品の品質を保証するシンボル

数字で見るTDK (2024年3月期)



※TDKグループ

カセットテープのTDKから電子部品のTDKへ

昔のTDKのイメージ



世界で最初に
フェライトを発明したのは
日本人です



カセットテープ



今は様々な市場に電子部品を供給するグローバルメーカー



Automotive

自動車市場



ICT

ICT市場



Industrial
& Energy

産業機器・エネルギー

1930年、東京工業大学の研究者によって発明された磁性材料“フェライト”。
この日本生まれの画期的な電子素材の工業化を目的にTDKは1935年に誕生しました。
電子部品の開発から始まり、**国産初のカセットテープ**で成長、**磁性材料**を軸に様々な事業を展開。
現在は、**グローバルな電子部品企業**として成長を続けています。

カセットテープのTDKから電子部品のTDKへ



こんなところに TDK

産業機器 & エネルギー

電源

ICT

TMR角度センサ

自動車

リチウムイオン電池

ICT

HDD用ヘッド

自動車

コモンモードフィルタ

ICT

5Gチップアンテナ/
積層バンドパスフィルタ

ICT

MEMSマイクロフォン

ICT

リチウムイオン電池

産業機器 & エネルギー

7軸MEMSモーション・
圧力センサ

自動車

ホールセンサ

自動車

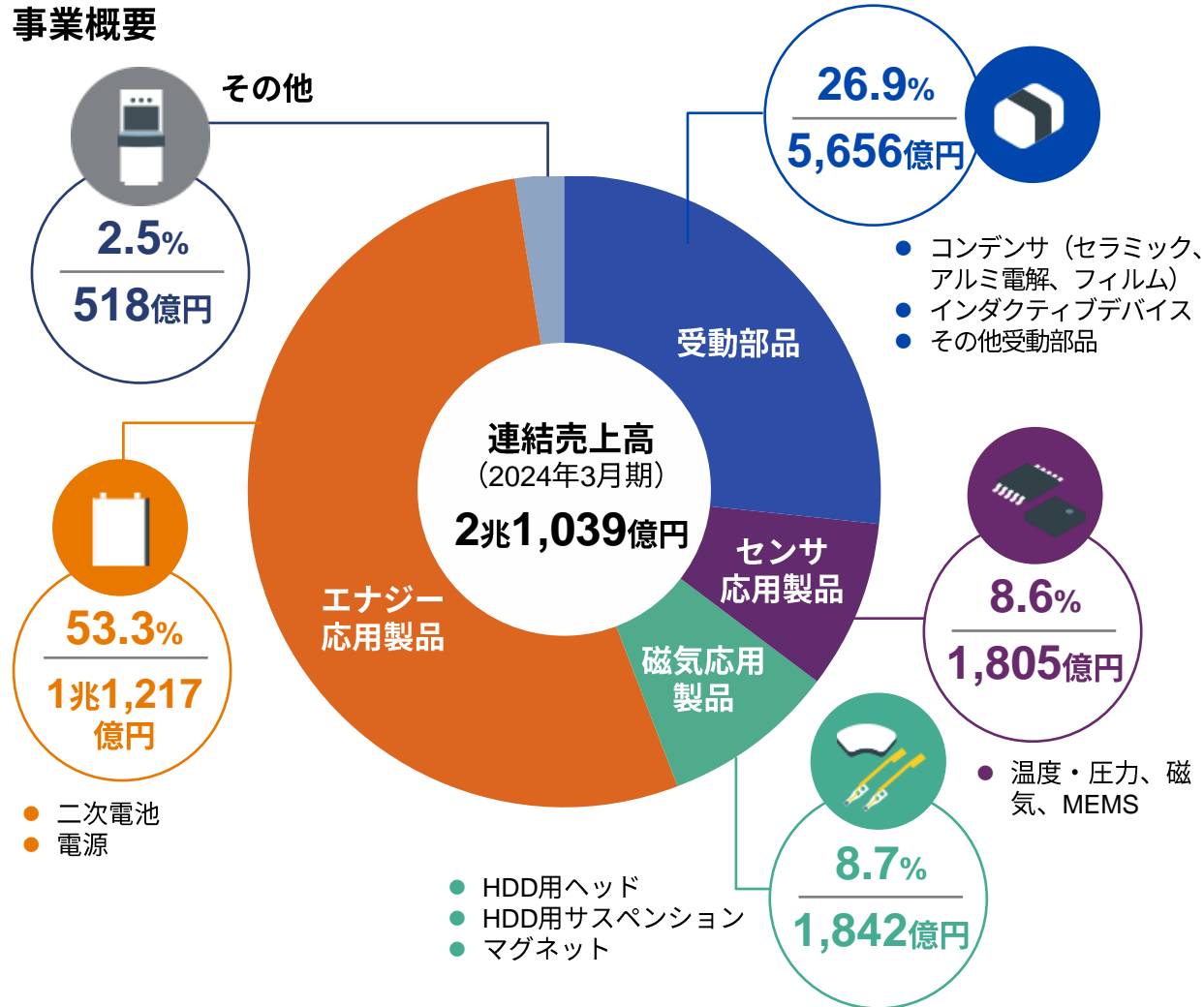
積層セラミック
チップコンデンサ (MLCC)

産業機器 & エネルギー

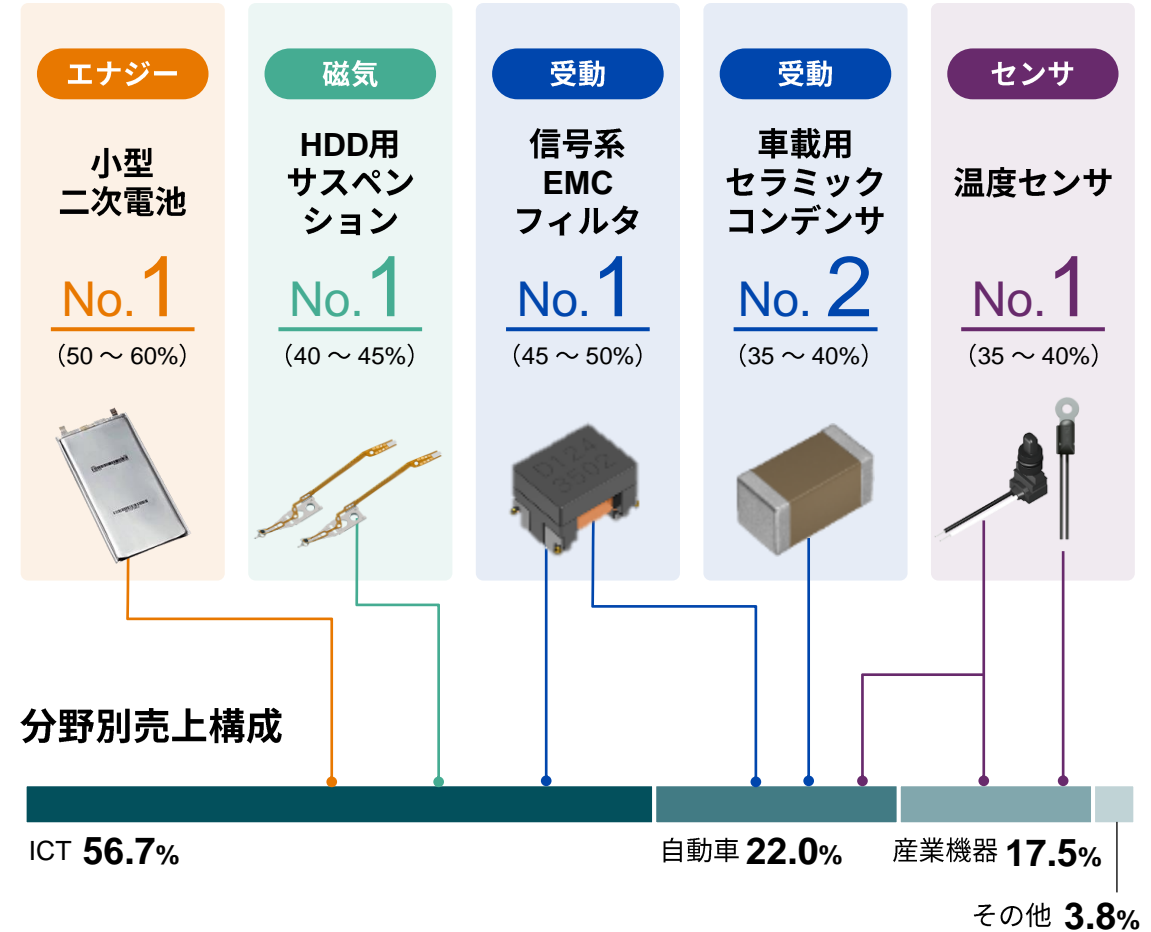
ネオジムマグネット

売上構成比

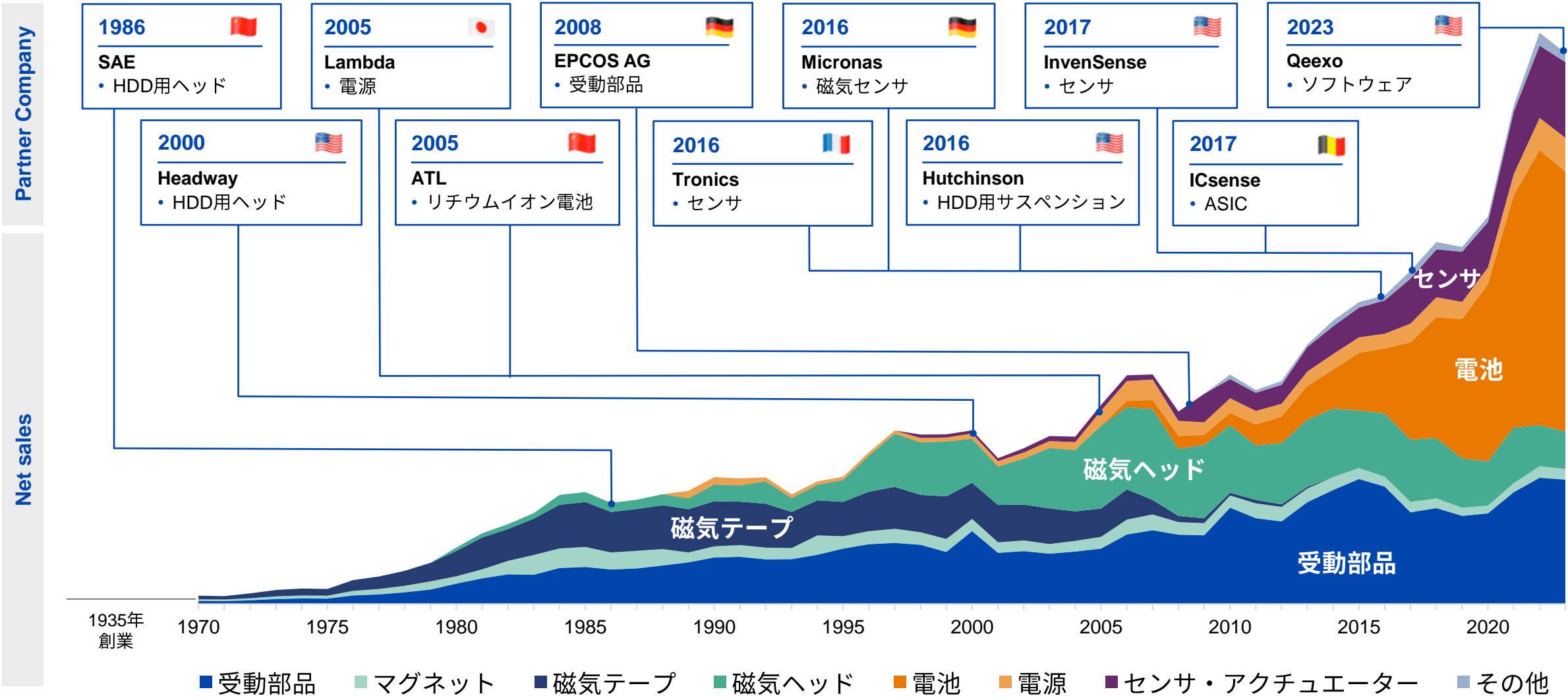
事業概要



主な高シェア製品



事業ポートフォリオの変遷



外部との協働

世界陸上競技選手権大会



2025年の第20回大会は、東京で開催

マクラーレン レーシングと戦略的技術提携



NEOM McLaren Formula E チームを技術サポート



2. TDKの強み

TDKのコアコンピタンス

4つのコアコンピタンスを磨き上げ、当社グループの持続的成長を実現する。



4 価値創造を生み出すユニークな企業文化

Empowerment & Transparency

TDKが注力する・重点3市場

見えないところで「当たり前」を支える。それがTDKの部品たちの使命。

01

Automotive

自動車市場



02

ICT

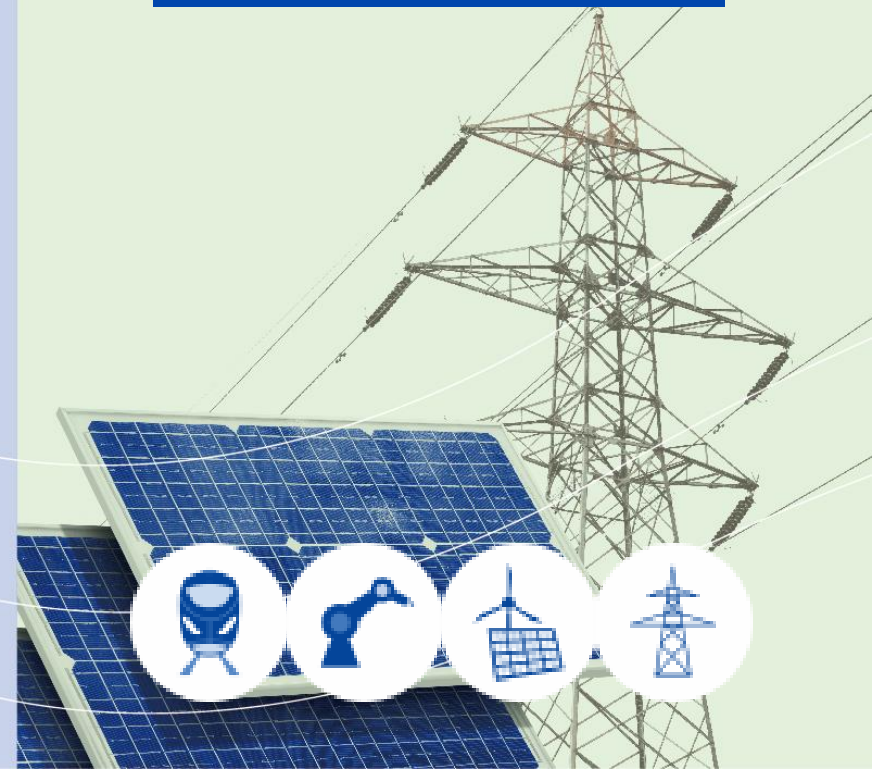
ICT市場



03

Industrial & Energy

産業機器・エネルギー



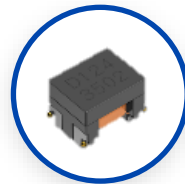
自動車市場

xEVへの移行やADASの向上に伴い、自動車の電子部品が増加しています。

ECU
(電子制御ユニット)

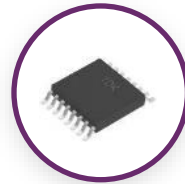


電気を貯めて電力を安定させる

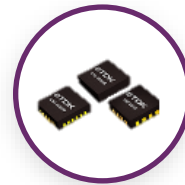


ノイズを除去し正確な信号伝達を実現する

ADAS/自動運転システム

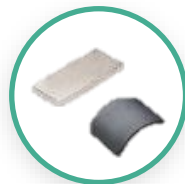


角度を測る

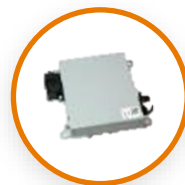


動きを測る

xEV駆動用モータ・電源



モータを回す力を作る

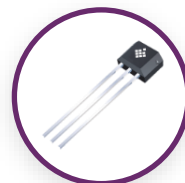


電力をECUに送る

xEV用バッテリー



温度を測る



電流を測る



受動部品



センサ応用製品



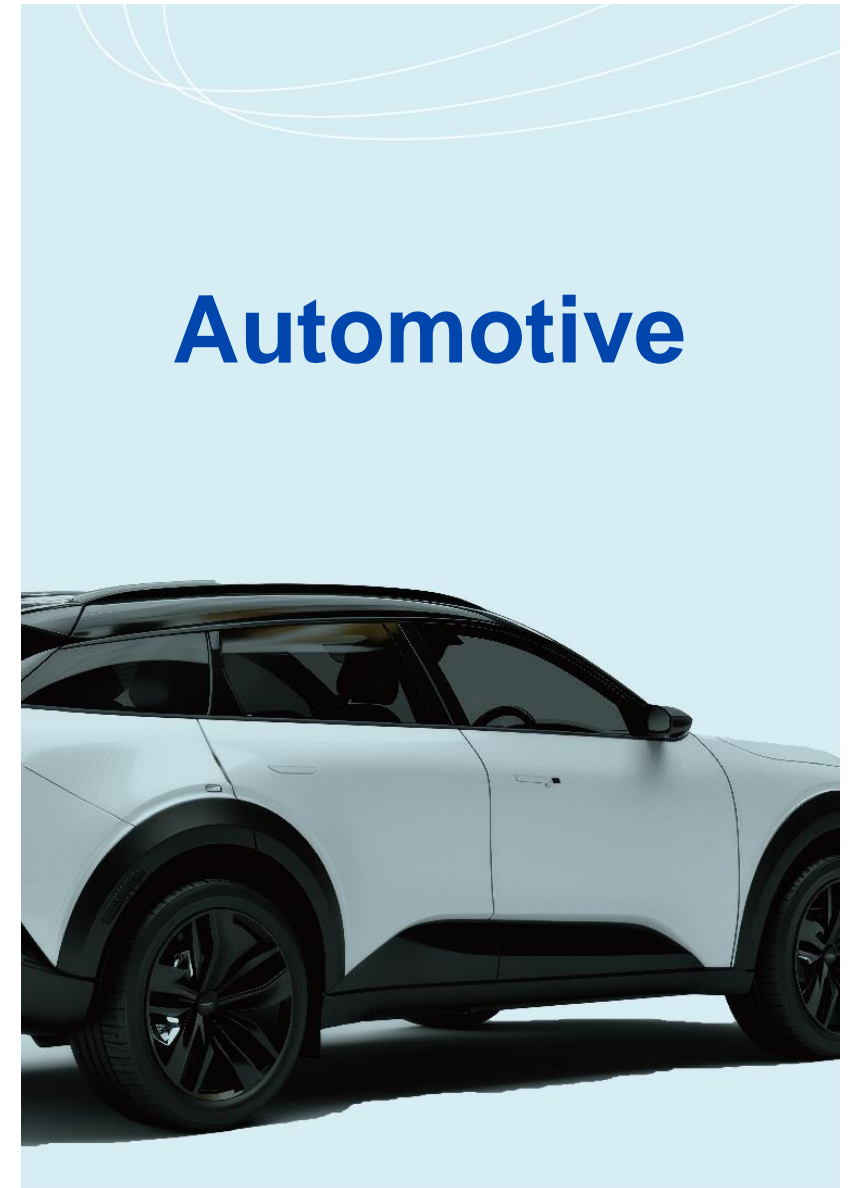
磁気応用製品



エネルギー応用製品



その他



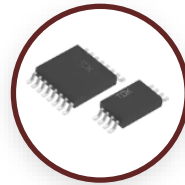
ICT市場

電子部品とデバイスが進化し、IoT時代を支えています。

スマートフォン

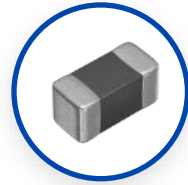


電気を蓄える

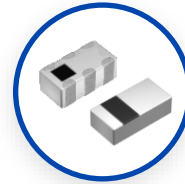


オートフォーカス、
手振れ補正を
サポートする

5G通信機器



静電気、
サージから
機器を守る

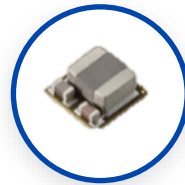


通信を
サポートする

データセンター



データを
記録する

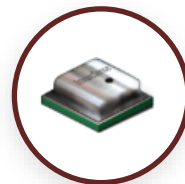


電圧を変換する

AR/VRグラス



動きを読む



音声を正確に
認識する



受動部品



センサ応用製品



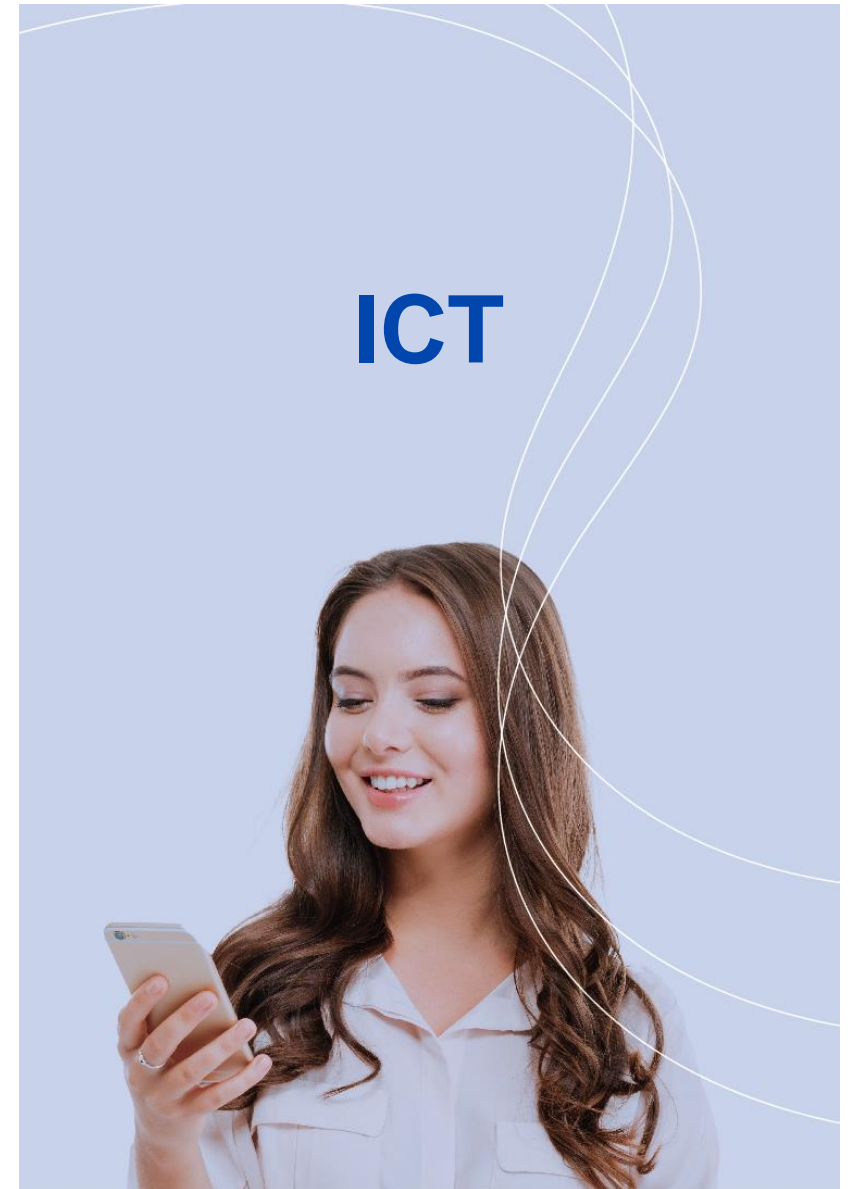
磁気応用製品



エネルギー応用製品



その他



産業機器・エネルギー

再生可能エネルギーの活用など、GXはSDGsや脱炭素社会に向けた技術トレンドです。

蓄電システム (ESS)

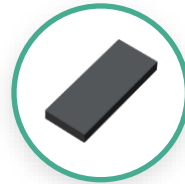


電気を蓄える



電気を変換する

再生可能エネルギー

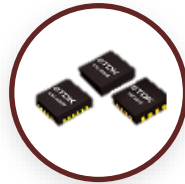


モーターで発電する



ノイズを取る

ドローン



動きを読む、姿勢を制御する



電気を蓄える

半導体製造設備



温度を測る



モノづくりを支える



受動部品



センサ応用製品



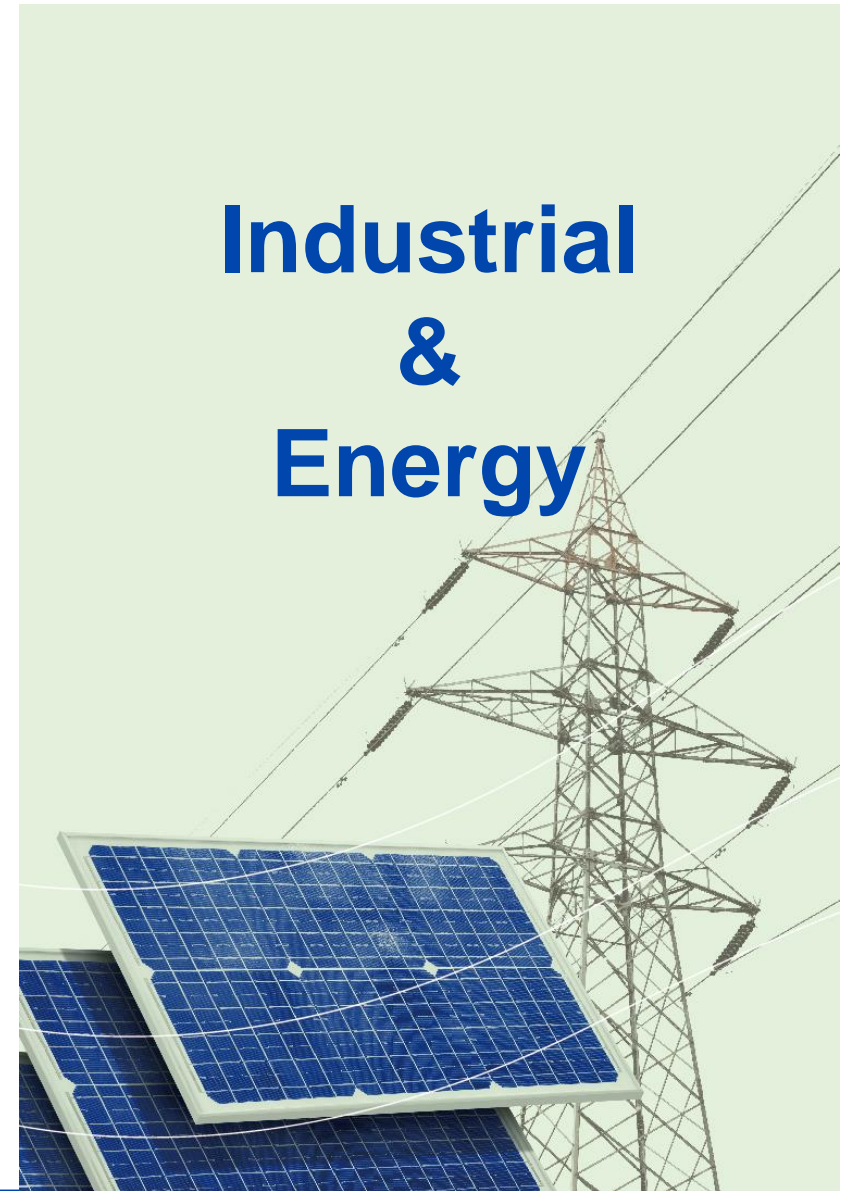
磁気応用製品



エネルギー応用製品



その他



Industrial & Energy

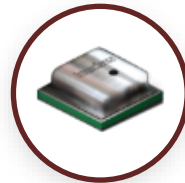
AI（人工知能）市場

AIの利活用の急拡大に伴い、電子部品の活躍の場はより一層広がっていくことが予測されます。

AIデバイス

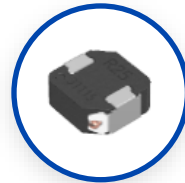


薄くて・軽い
高性能バッテリー

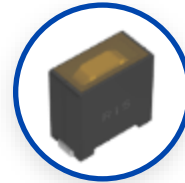


正確な音声認識

AIチップ 周辺機器



ノイズを取る



電流を整える

データセンター



AIデータを
大量に記録する



電気を蓄える

エッジAI+ 機械学習



センサとソフトウ
ェアの組み合わせ
で課題解決



受動部品



センサ応用製品



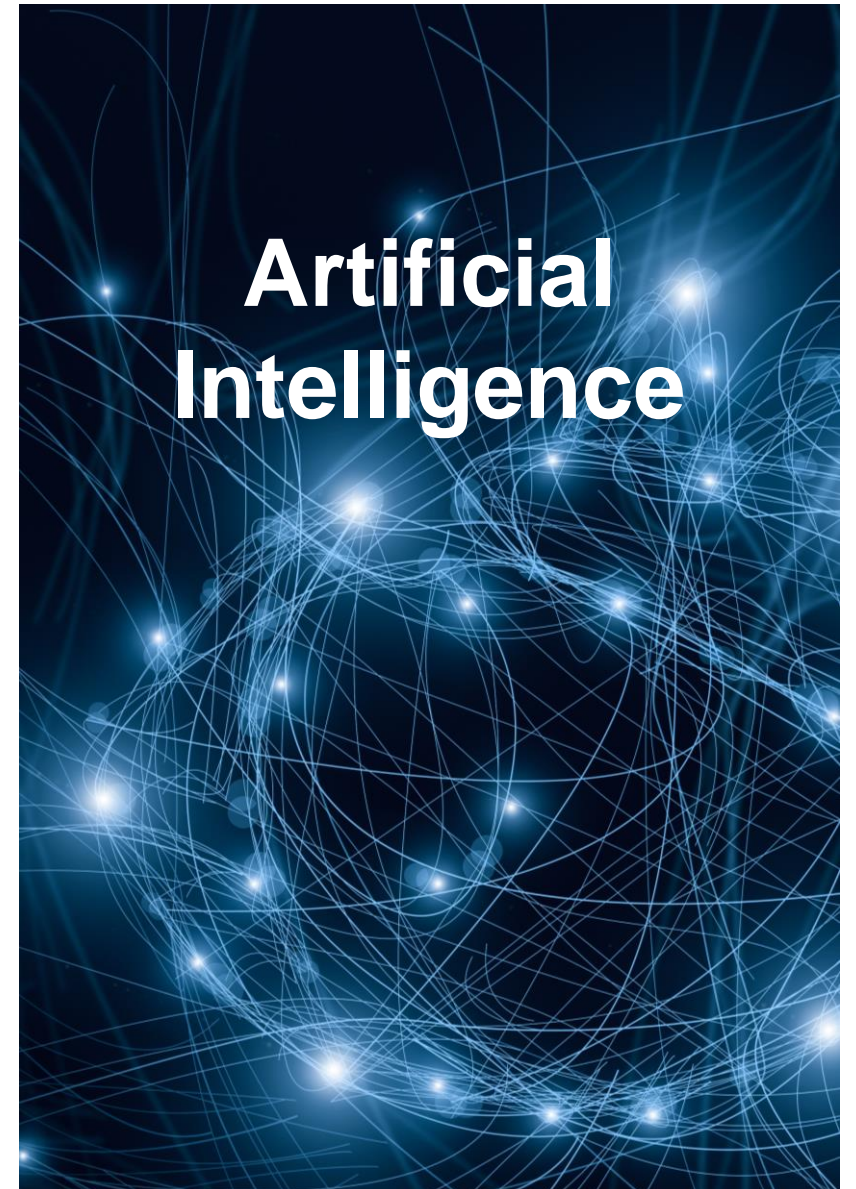
磁気応用製品



エネルギー応用製品



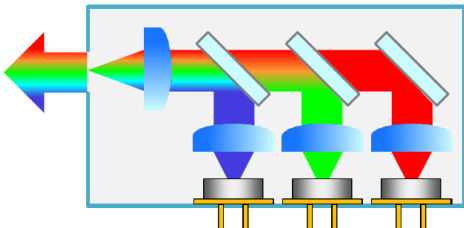
その他



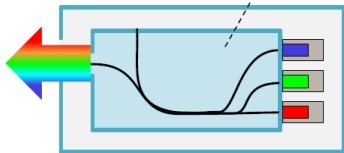
次世代を担う新技術

超小型フルカラーレーザーモジュール

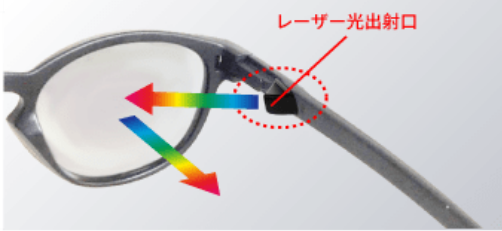
従来方式の光モジュール



新方式の光モジュール



従来方式の光モジュールに比べ、約**10**倍の小型化が可能。
ARグラスの小型・軽量化に貢献。



※イメージ画像

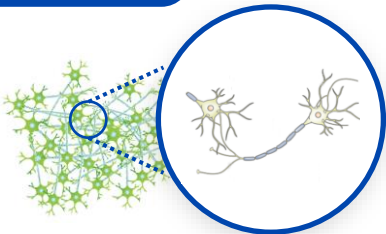
想定用途 ・ ARグラス



ニューロモルフィックデバイス

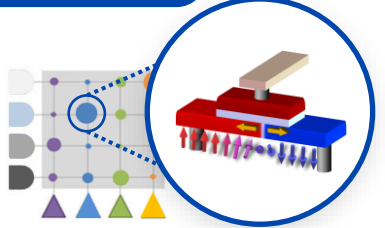
脳神経系のモデルを、スピンメモリスタを用いた電子回路で模倣。

脳神経系



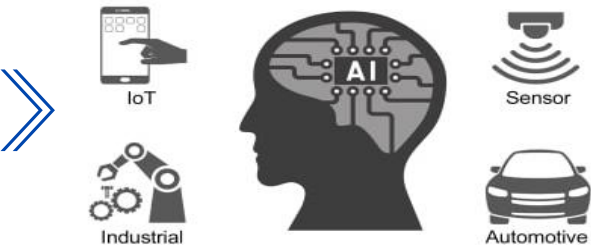
シナプス+ニューロン

電子回路



スピンメモリスタ

AIの消費電力を**100**分の**1**以下に低減。
クラウド接続せず、エッジで豊富なAI機能を超低消費電力で利用。

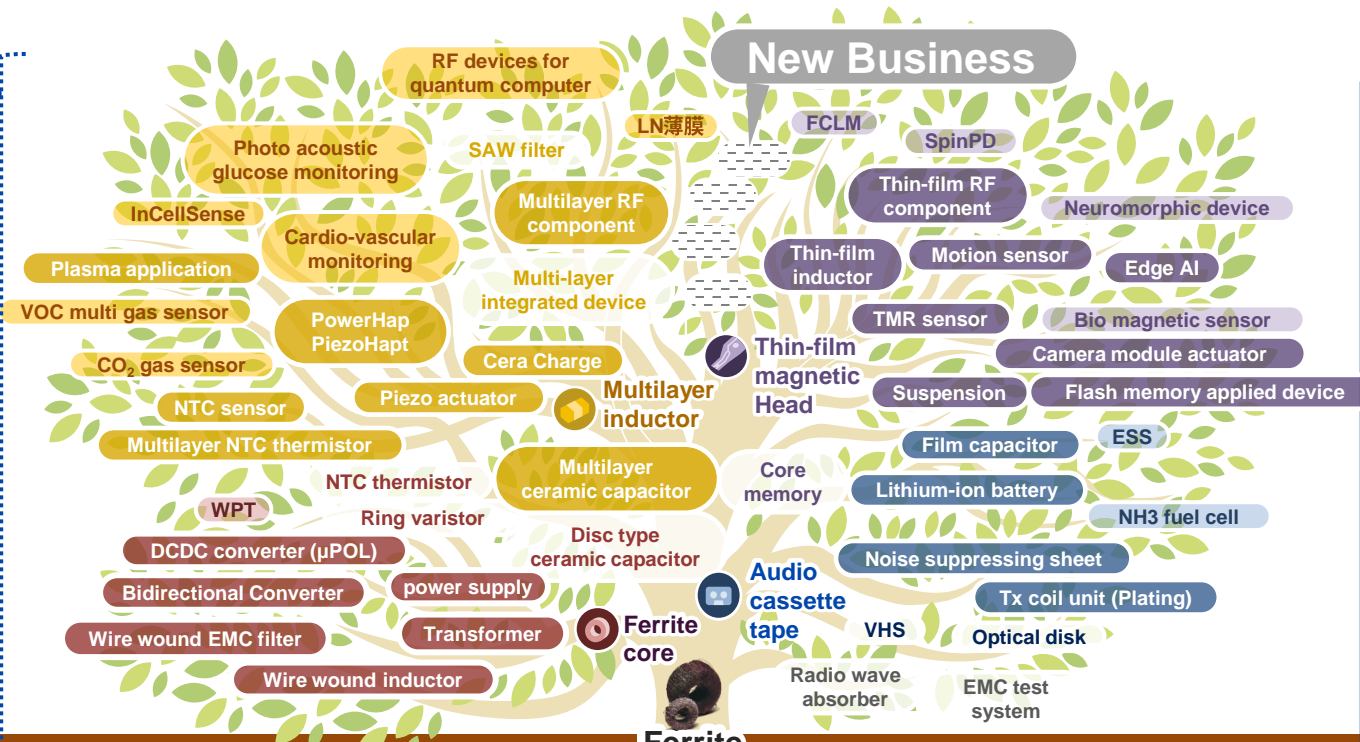


想定用途 ・ AIサーバ等の消費電力を大幅削減



価値創造を支える 未財務資本

未来のフェライトツリー



技術力

- 進化を続けるフェライトツリー
- 磨き上げてきた製造技術とコアテクノロジー

人的資本

- 10万人超の人材のうち約90%が海外で活躍
- 買収先・中途採用問わず登用・活躍

顧客基盤

- 世界最先端の顧客との深い繋がり（高い世界シェア）

組織力

- サステナビリティ
- DXの推進
- グループガバナンス
- 独自の企業文化

企業文化



TDK Venture Spirit 東京工業大学で発明された磁性材料フェライトの工業化を目的としたベンチャー企業として1935年に創業されて以来脈々と受け継がれた、新たな技術創出や新事業創造に果敢に挑戦するTDKの企業文化。

機能対等 階層（タテの関係）ではなく、機能（役割）をベースに自由闊達に対等に議論することを推奨するTDKの価値観。

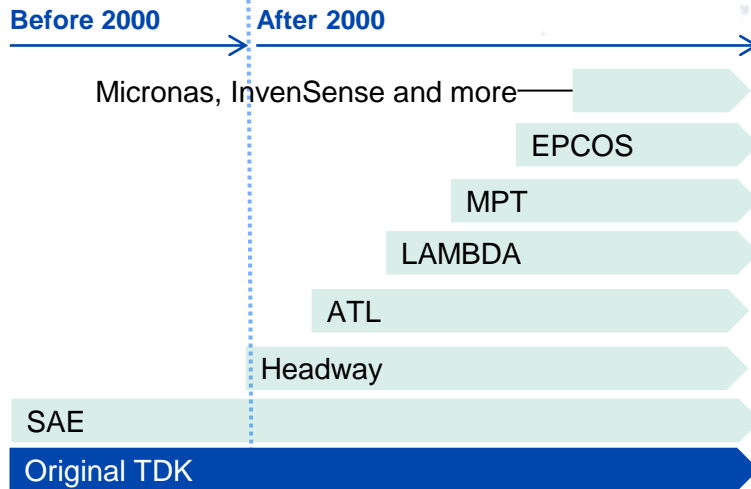
多様性重視の企業文化

「人がすべて」、一人ひとりの価値創造の合計が会社の価値です。」

世界の主な買収先

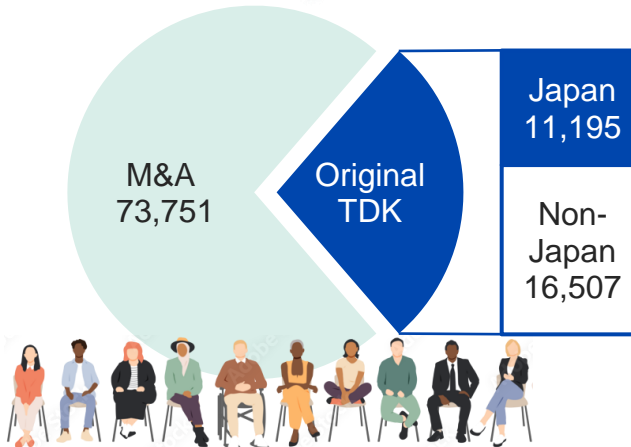


買収時期



従業員構成

10万人強



TDK United

個人や個社の力を伸ばしながらお互いの理解を促し、チームワークで価値を創出する個性あふれる融合体という TDKが目指す組織文化を示したものの。

“Quality”追求で企業価値を向上

Quality First



1. オペレーションの Quality

- 社内DXの推進
- 営業、品質、未財務のDX化の推進



2. 製品の Quality

- 生産の効率化
- 歩留まり率の向上
- マーケティングの強化



3. 健康の Quality

一人ひとりの心身のクオリティは、最も重要な経営課題のひとつと認識しています。

- TDK健康宣言を制定
- 健康経営アライアンス（健康経営の型づくりとソリューションの共創を目的とした国内企業のアライアンス）への参画



4. 職場環境の Quality

働き方、働きがい向上のための環境改善を推進しています。

- 官民連携での街づくり等による働きがいのデザイン
- 働きやすい労働環境の整備

3. 長期ビジョン・新中期経営計画

長期ビジョン

TDK Transformation

Accelerating transformation for a sustainable future

- ・独自の材料・プロセス・ソフトウェアを組み合わせた電子デバイスで、テクノロジーの進化と社会の変革を加速し、サステナブルな未来の実現に貢献します。
- ・自己を変革し続け、世界のお客様と共に成長する No.1パートナーになります。



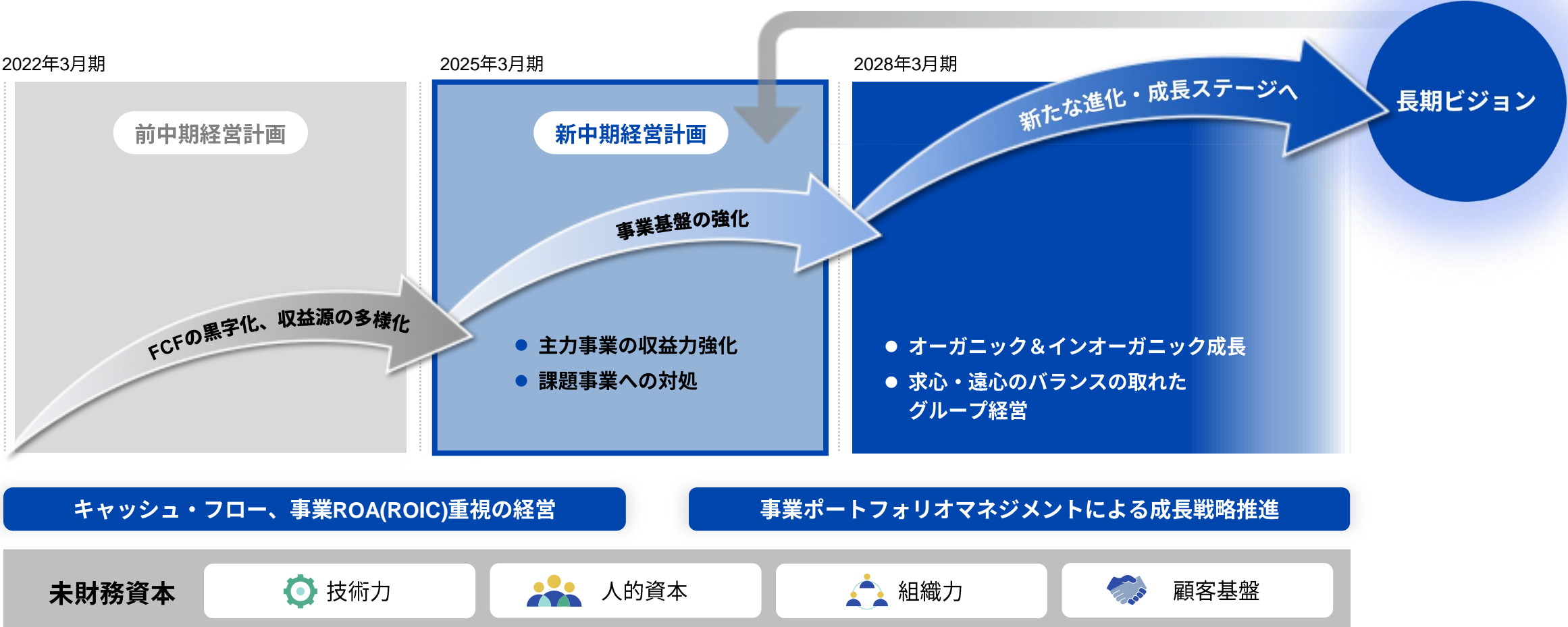
TDKが見据える社会のTransformationのイメージ



新中期経営計画の位置づけ

長期ビジョンからバックキャストした新中期経営計画

バックキャスト

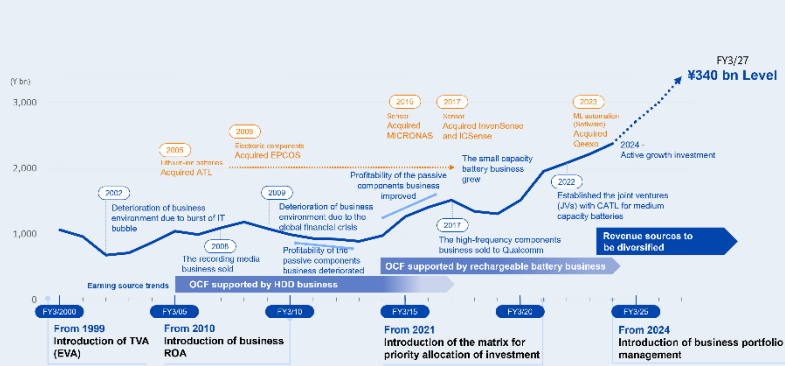


新中期経営計画のポイント

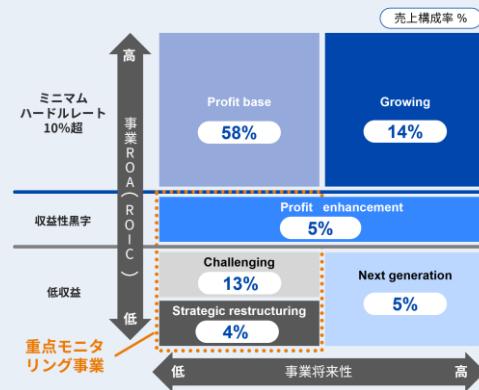
$$\left[\text{企業価値} = \frac{\text{FCF創出の最大化} \uparrow}{\text{資本コスト (WACC)} \downarrow - \text{期待成長率} \uparrow} \right]$$

新中期経営計画の主なポイント

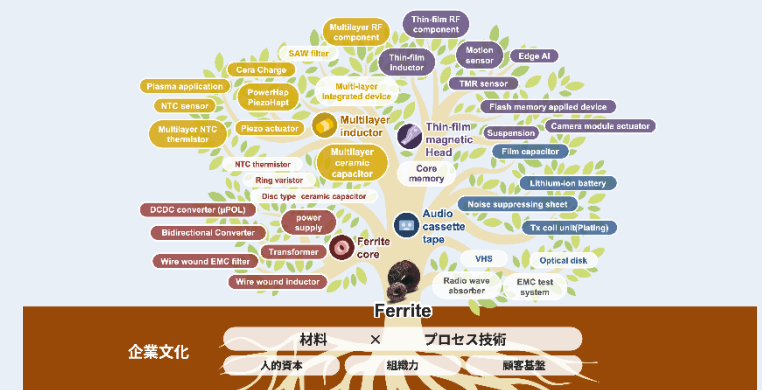
1 キャッシュ・フロー経営の強化



2 事業ポートフォリオマネジメントの強化 (ROIC経営の強化)



3 フェライトツリーの進化 (未財務資本の強化)



財務・未財務KPI

2024年3月期

2027年3月期

ポートフォリオ変革による
中長期で目指す姿

		2024年3月期	2027年3月期	2027年3月期	
財務指標	成長性	売上高 [億円] (年率換算成長率)	21,039	25,000 (約5%)	(10%以上)
	効率性	ROE	7.9%	10%以上	15%以上
		ROIC (事業ROA) (>WACC)	5.3% (<7.0%)	8%以上	12%以上
		営業利益率	8.2%	11%以上	15%以上
財務健全性	株主資本比率	50%	50%水準		
	D/Eレシオ	0.4倍	0.3~0.4倍		
未財務指標	重要KPI	チームメンバー・エンゲージメント調査			
		コミュニケーションスコア	67pt	75pt以上	
		サーベイ参加率	80%	80%以上	
		CO ₂ 排出量削減 (SBTi Scope1+2、2022年3月期対比) ※	42.9%	23.3%	42.0%
為替前提		144円/US\$	135円/US\$	135円/US\$	

※SBTiは、企業が科学的に根拠のある環境目標を設定することを支援しているイニシアチブです。パリ協定で示された「世界の平均気温の上昇を産業革命前と比べて1.5℃以内に抑える」という目標の達成に向け、SBTiは企業が目標設定の際に使用できる基準を提供しています。当基準に基づき算定された段階的に必要なCO₂排出量削減率を2027年3月期目標値として定めておりますが、2024年3月期において先行して達成する見通しとなりました。これは、再生可能エネルギー (Scope2) の積極的導入推進によるものですが、中期経営計画において大幅な増産や拠点拡大を計画しており、現時点では目標値は妥当と判断しております。なお、2024年3月期実績は概算値となります。当社は、SBTiによるSBT認定を2024年6月に取得しました。

4. 株価情報・株主還元

時価総額・株式分割

時価総額の推移（10年）



※2024年11月19日時点

株式分割を実施

効力発生日：2024年10月1日

5株



1株を5株に分割

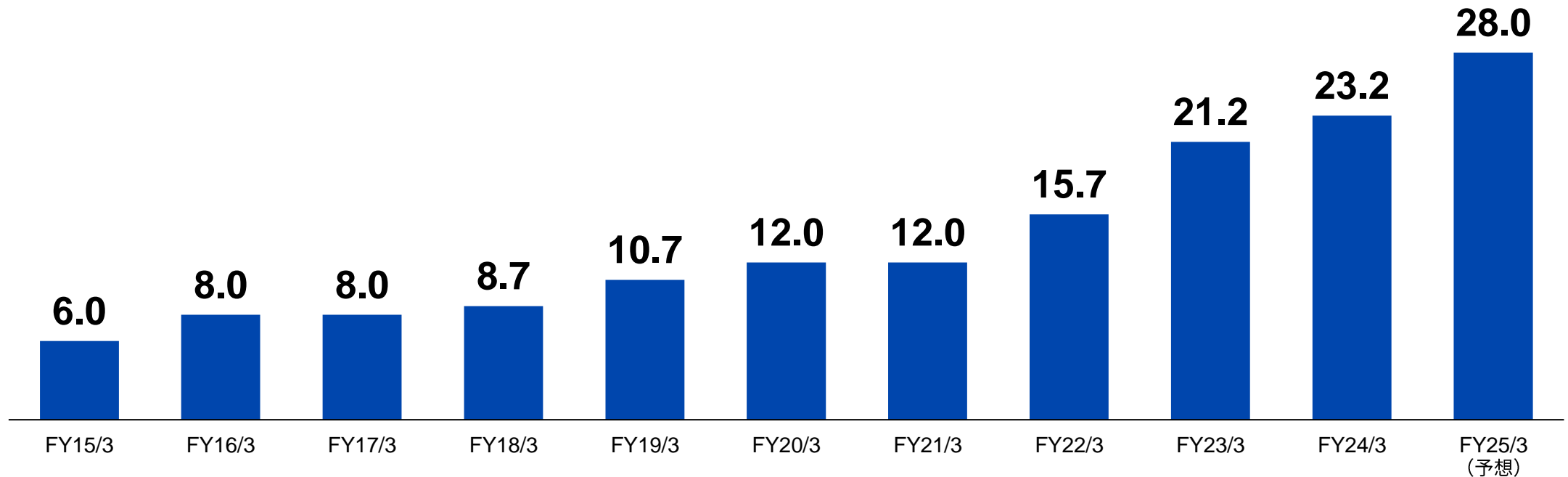
1株



株主還元のさらなる強化へ

- 配当性向の目安を30%から**35%**へ上げました。
- 成長投資や株式市場の状況等を鑑みつつ、自己株式取得などのさらなる還元策についても検討します。

■ 年間配当金（円）の推移



※配当金は、2024年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行った換算後の金額を記載しています。
※2022年3月期から米国会計基準に替えてIFRSを適用しており、2021年3月期についてもIFRSに組み替えて表示しています。

おわりに

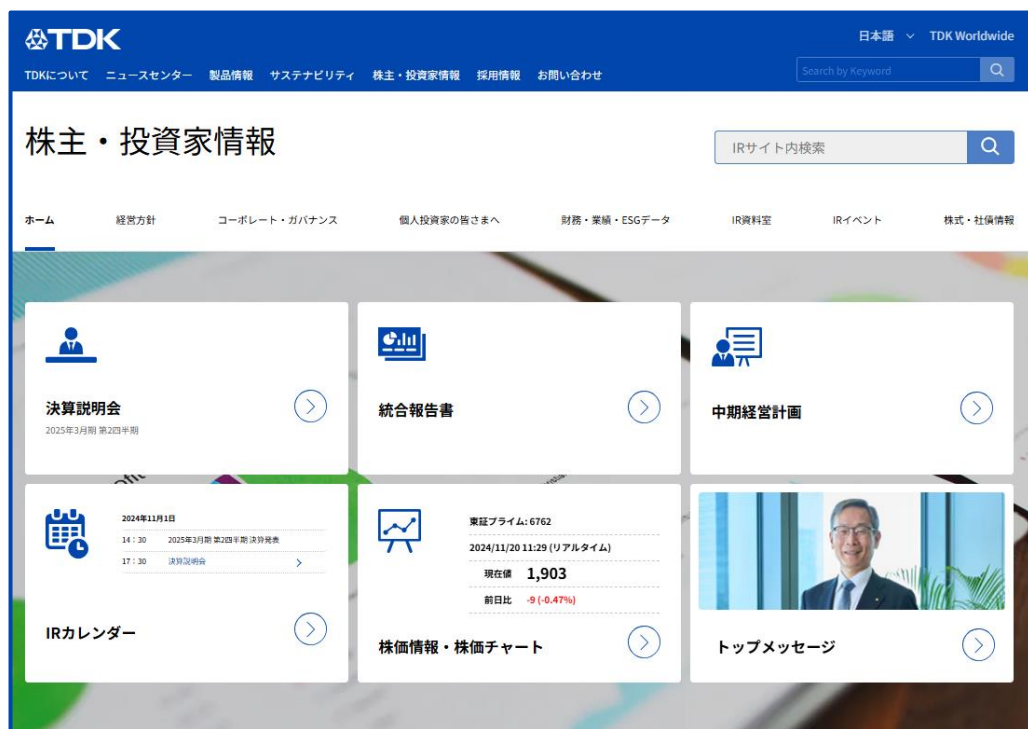


- TDK Unitedの力を結集して、社会のTransformationに貢献し続けるため、TDK内部の変革を加速させます。
- ROIC・WACCスプレッドを高め、キャッシュ・フロー拡大と資本効率の改善を推進します。
- 未財務資本を高める経営を強化し、フェライトツリーを進化させ、企業価値を最大化させます。

TDK公式WEBサイト 株主・投資家情報ページのリニューアルのお知らせ

株主・投資家情報トップページ

<https://www.tdk.com/ja/ir/index.html>



個人投資家の皆さまへ

https://www.tdk.com/ja/ir/individual_investors/index.html



統合報告書2024公開のお知らせ

■ 掲載URL

https://www.tdk.com/ja/ir/ir_library/annual/index.html



■ 公開日

2024年7月31日（水）

■ 統合報告書2024のポイント

新たな長期ビジョン「TDK Transformation」、新中期経営計画のもと、社会の変革に事業を通じて貢献し続けていくため、TDKグループでどのように変革を加速させ、企業価値の向上に挑んでいるかをお伝えする内容としています。

- 第1章：TDKの長期ビジョン
- 第2章：TDKの成長戦略
- 第3章：TDKのガバナンス

■ 外部評価

統合報告書2022	• 日経統合報告書アワード「優秀賞」
統合報告書2023	• 日経統合報告書アワード「優秀賞」 • GPIFの運用機関が選ぶ「優れた統合報告書（1機関）」、「改善度の高い統合報告書（2機関）」

Appendix

会社概要

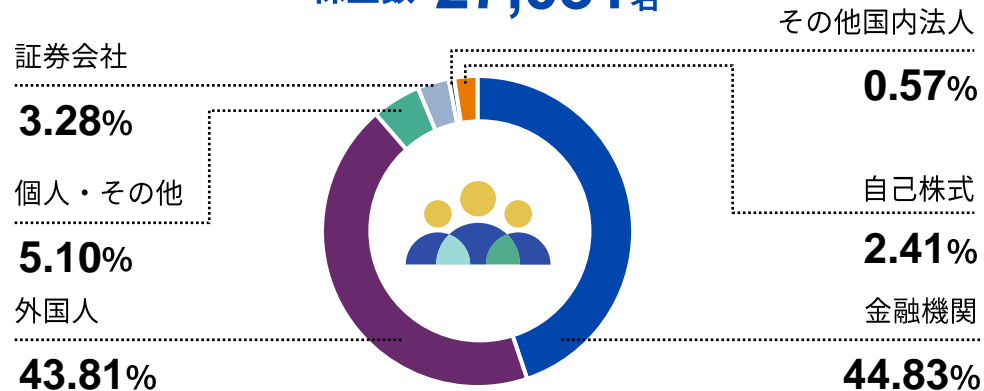
(2024年3月期)

商号	TDK株式会社・英文商号TDK Corporation
登記上の会社名	TDK株式会社
本社	〒103-6128 東京都中央区日本橋二丁目5番1号
設立	1935年12月7日
発行可能株式総数	7,200,000,000株 (2024年10月現在)
発行済株式の総数	1,943,859,885株 (2024年10月現在)
株主数	27,031名
資本金	32,641,976,312円
上場証券取引所	東京証券取引所
連結売上高	2兆1,039億円

連結純利益	1,247億円 [IFRS]
従業員数	101,453人
会社格付 (2021年2月現在)	Baa1 (ムーディーズ)、A- (スタンダード & プアーズ)、A+ (格付投資情報センター R & I)
短期社債格付 (2021年2月現在)	A-2 (スタンダード & プアーズ)
グローバルネットワーク	30以上の国や地域に250以上の工場、研究開発拠点、および営業拠点
主なビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ・受動部品 ・センサ応用製品 ・磁気応用製品 ・エネルギー応用製品 ・その他

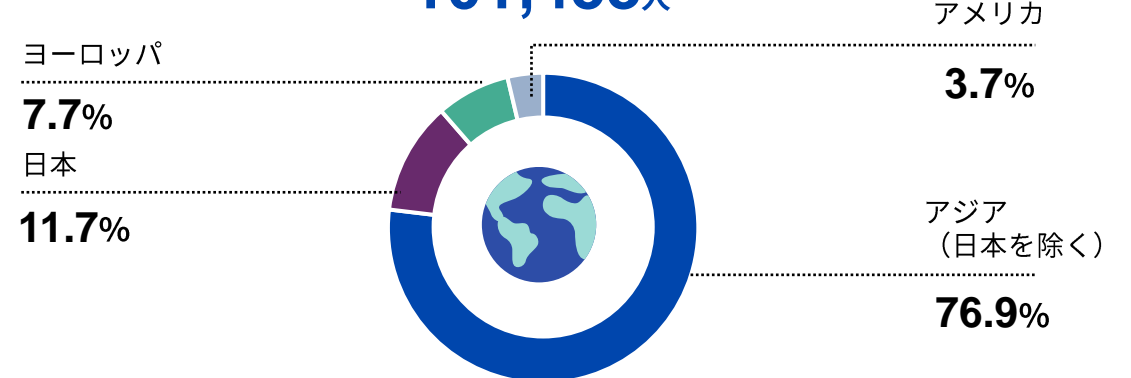
株式分布状況

株主数 **27,031**名



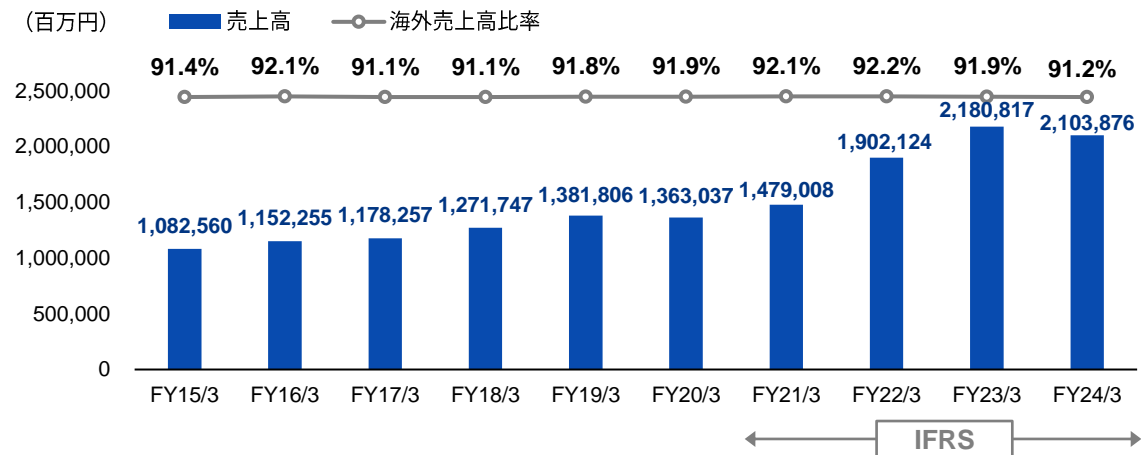
地域別従業員数

101,453人

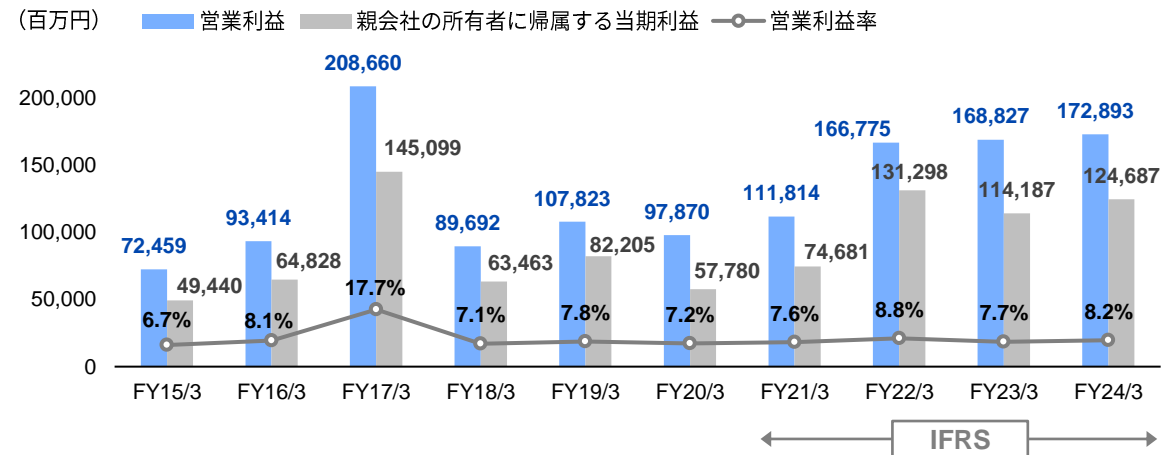


業績ハイライト 過去10年推移

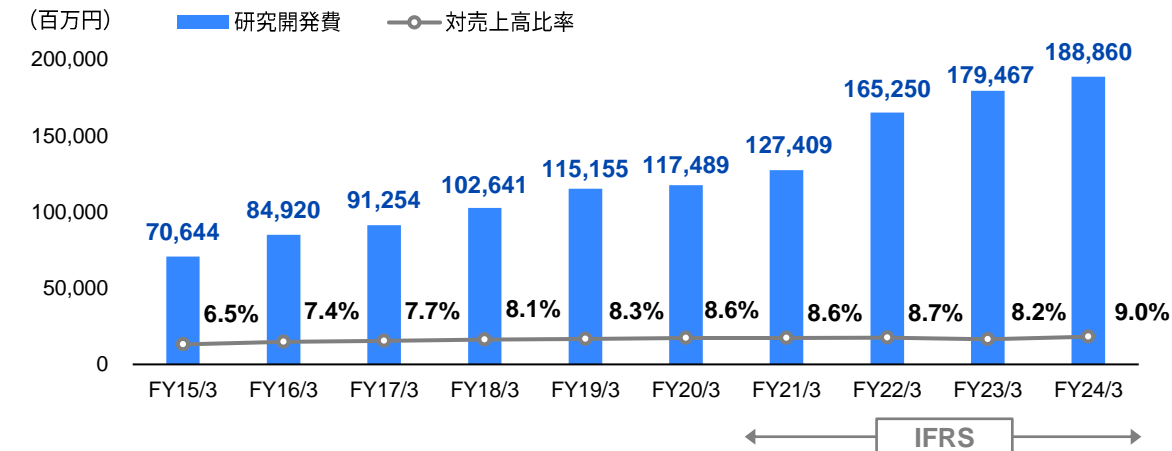
売上高・海外売上高比率



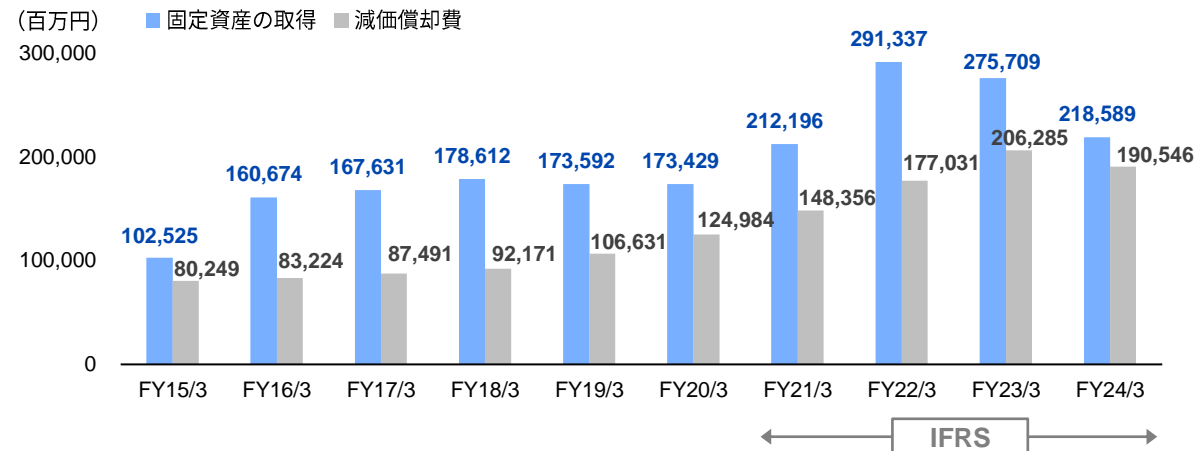
営業利益・営業利益率・親会社の所有者に帰属する当期利益



研究開発費・対売上高比率

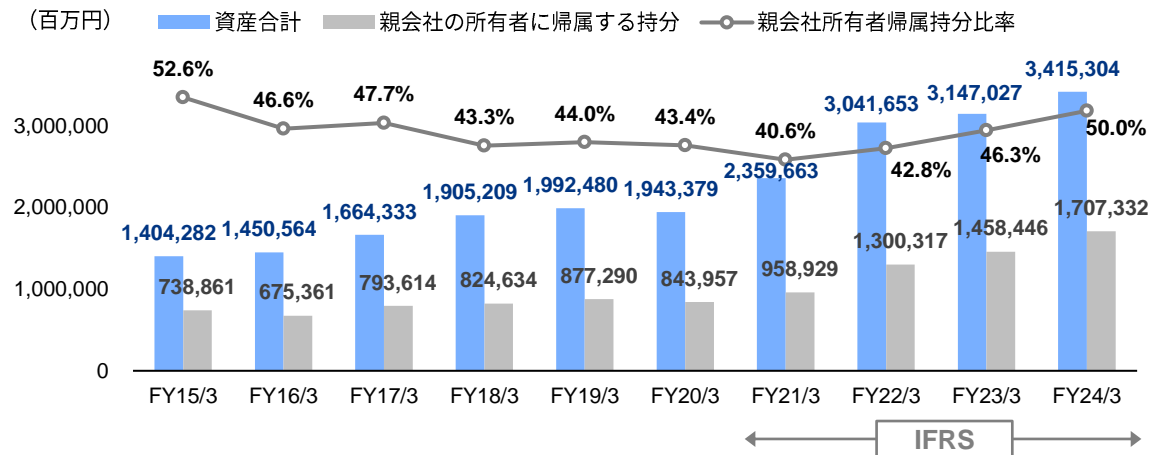


固定資産の取得・減価償却費

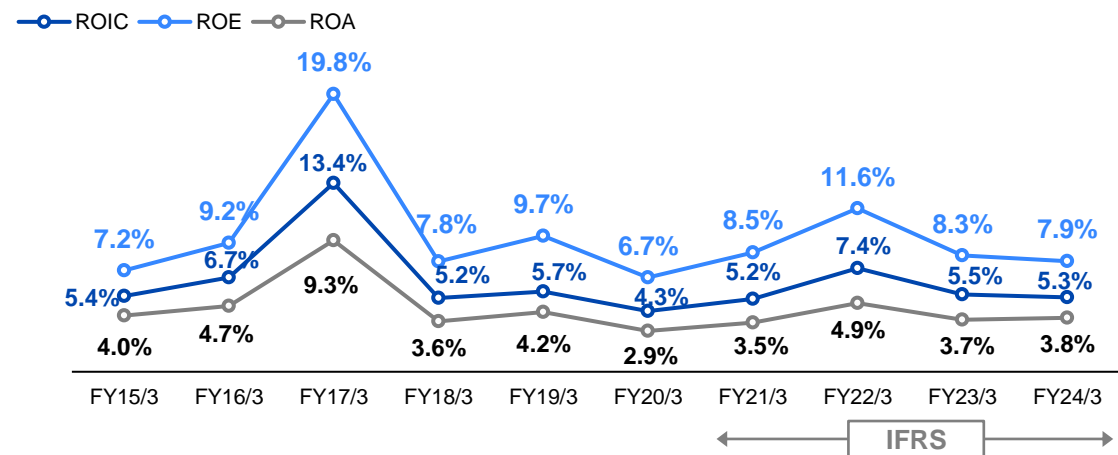


業績ハイライト 過去10年推移

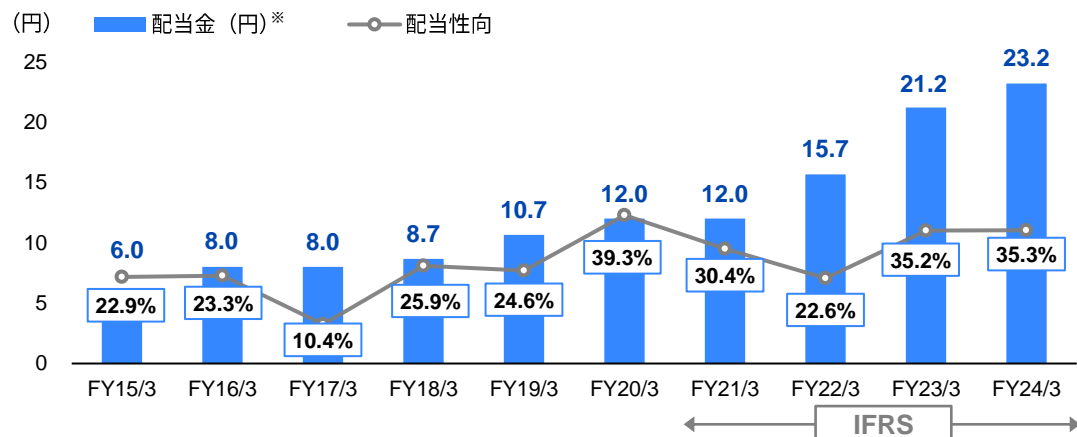
■ 資産合計・親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者帰属持分比率



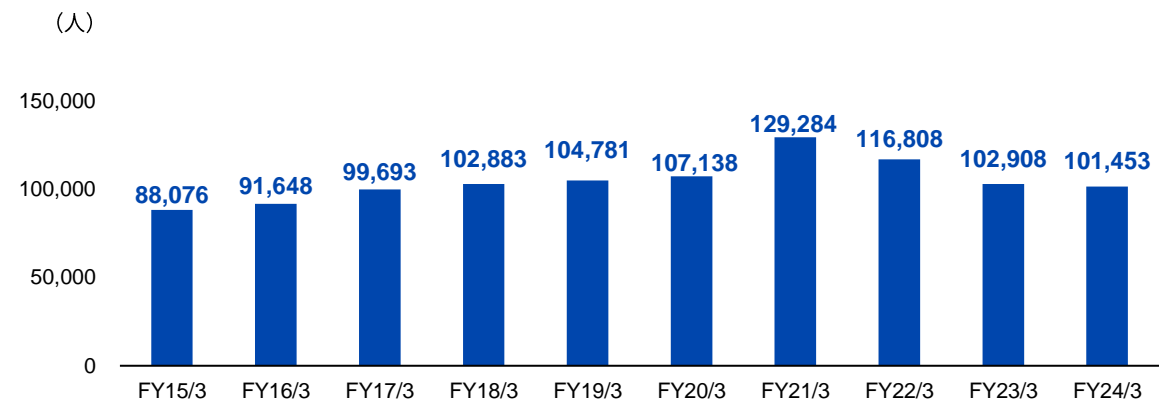
■ ROIC・ROE・ROA



■ 配当金・配当性向



■ 従業員数



*配当金は、2024年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行った換算後の金額を記載しています。

インデックスへの組み入れ・外部機関からの評価

インデックス



JPXプライム150指数

「資本収益性」と「市場評価」という、価値創造を測る二つの観点から選定した銘柄により構成



FTSE4Good Index Series

ESGを強力に実践する企業のパフォーマンスを測定するために設計



FTSE Blossom Japan Index

ESG対応の優れた日本企業のパフォーマンスを測定するために設計



FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

ESGの対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映し、セクター・ニュートラルとなるよう設計



S&P / JPX カーボン・エフィシエント指数

TOPIX銘柄を対象に、環境情報の開示状況、炭素効率性（売上高当たり炭素排出量）の水準に基づき、構成銘柄のウエイトを決定



SOMPO サステナビリティ・インデックス

SOMPOリスクマネジメント株式会社実施の「ぶなの森 環境アンケート」および「ESG経営調査」の結果に基づき構成



iSTOXX MUTB Japan プラチナキャリア150インデックス

積極的に社員のキャリア構築を支援する日本企業150社で構成



Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index



MSCI ESG Leaders Indexes ※1

ESG評価に優れた企業を選定

2024 CONSTITUENT MSCI ジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数 ※2

ESGの取り組みが優れた日本企業を選定

外部機関からの評価



日経統合報告書アワード 優秀賞（2022年、2023年）



S&P Global Sustainability Yearbook Member



CDP水セキュリティ対策 A（最高位、4年連続）



CDPサプライヤー・ エンゲージメント評価 リーダー・ボード（4年連続）

サプライヤー・エンゲージメント評価において、サプライヤー環境活動やスコープ3排出量の結果を開示していることなどで高い評価を獲得

※1,2 THE INCLUSION OF TDK CORPORATION IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF TDK CORPORATION BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

将来に関する記述についての注意事項

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといたします。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。

